

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年3月31日現在

機関番号：32605

研究種目：挑戦的萌芽研究

研究期間：2009～2011

課題番号：21650186

研究課題名（和文） 家政学・生活科学へのライフマネジメントの導入  
—ライフマネジャーの養成に向けて—研究課題名（英文） Introduction of life manager training system within education  
of department of life science or home economics

研究代表者

白澤 政和 (SHIRASAWA MASAKAZU)

桜美林大学・自然科学系・教授

研究者番号：20094477

研究成果の概要（和文）：家政学や生活科学は、学生に生活に関する教育を行っており、ケアマネジャーを超えたライフマネジャーの養成の可能性について検討した。韓国では、家政学部や生活科学部ではライフマネジャーともいふべき国家資格である「健康家政士」を養成し、「健康家庭支援センター」に就職させている。韓国のケアマネジメントを担おうとしている社会福祉士が雇用されている「コミュニティセンター」と「健康家庭支援センター」の比較調査から、家政学・生活科学系の職員は相談支援についての知識や技術が弱い、家族への教育的・指導的アプローチに秀でていることが分かった。同時に、日本と韓国の家政学や生活科学でのカリキュラム比較研究から、韓国では相談支援に関する科目やその実習が多く含まれていることが分かった。

研究成果の概要（英文）：Since students are educated on people's life at department of life science or home economics, these departments are easier to trained life manager who have more knowledge on people's life situation than those of care manager have. In Korea, trained health home economics professional students like life managers are adopted at health family support centers. Compared social works at community center and health home economics workers at health family support center, latter staffs have more educational and coaching ability to family members, but less knowledge and method of counseling and helping. From comparison of educational curriculums of home economics or life science between Japan and Korea, we can understand that Korean students learn more counseling and helping method and field education.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	500,000	0	500,000
2010年度	1,500,000	0	1,500,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
総計	3,000,000	300,000	3,300,000

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：生活科学・生活科学一般

キーワード：家政・家庭科教育、生活管理

### 1. 研究開始当初の背景

家政学や生活科学は、戦後の国民が衣食住をいかに確保するかの時代においては、きわめて重要な研究分野であった。現在にあっては、衣食住のミニマム論や量的問題から、QOLや質的な問題からの研究が中心となっている。同時に、生活科学や家政学という全体としてよりも、むしろ衣食住に専門分化して、専門職の養成を展開している。

そのため、家政学や生活科学という全体から、その領域で得られた知識や技術を活用して、人々の「生活」を支援していく人材養成はできないかを、探索することが必要になっている。それは、少子化のなかで、高校生が家政学や生活科学に対して志望してくる人数が減少するなかで、家政学や生活科学の知識を活用して、人々の生活を支援していく専門職の確立は、家政学や生活科学の魅力を高めることに貢献できると考えたからである。

### 2. 研究の目的

研究としては、日本の家政学や生活科学で教育しているカリキュラムを組み立てることで、生活支援を可能にする専門職人材の養成を検討した。この専門職をライフマネジャーと名付け、高齢者や障害者領域で活躍しているケアマネジャーの上に家政学や生活科学の知識や方法を有することで、家政学や生活科学の領域で育成できないかを検討するものである。

結果として、韓国では多くの家政学部や生活科学部が廃部に追い込まれるなかで、一方、新たに国家資格である「健康家政士」を創設し、家政学部や生活科学部でその専門職の養成に取り組んでいることに着目した。同時に、

そこで養成された専門職が健康家庭支援センター職員の資格要件となり、学生の就職が確保できていることにも着目した。こうした観点から、ライフサポーターの韓国版である健康家政士の仕組みを日本の家政学・生活科学の教育に導入していくうえでの課題を明らかにすることが、本研究の目的であった。

### 3. 研究の方法

主たる研究については、以下の2つの方法でもって実施した。

- ① 韓国の総合社会福祉館であるコミュニティセンターで社会福祉系の職員が実施している相談支援内容と健康家庭支援センターで家政学・生活科学系職員が実施している相談支援内容の比較を行うことであった。これは、社会福祉館での業務は主として社会福祉士が担っており、主たる業務としてケアマネジメントが行われていることであり、それぞれの機関の職員のフォーカス・グループによる質的調査から、職務内容についての分析を行った。
- ② 韓国の国家資格「健康家政士」を取得するために必要なカリキュラムおよびそのシラバスと日本の家政学や生活科学のカリキュラム・シラバスを比較検討し、どのようなカリキュラムやシラバスを導入することで、日本の家政学や生活科学でライフマネジャーの育成ができるかを具体的に提案することであった。

### 4. 研究成果

両者の研究の結果は、それぞれ以下のものである。

- ① 家政学・生活科学系の職員は相談支援についての知識や技術が弱い、家族への教育的、指導的アプローチは秀でていることが分かった。同時に、総合社会福祉館自身は低所得者向けであり、健康家庭支援センターは住民全般といった対象者イメージがあることが分かった。ここから、家政学・生活科学学生をライフマネジャーとして養成していく際には、相談支援の教育をしていくことが不可欠であることが分かった。
- ② 韓国の「健康家政士」の教育内容と日本の家政学や生活科学のカリキュラムを比較検討し、相談支援に関する科目、家族以外の地域社会や女性、高齢者、ボランティアに関する科目、相談を中心とした実習科目が、ライフマネジャーの育成をしていくうえで必要であることを具体的に提案した。

以上の結果の考察であるが、家政学や生活科学でライフマネジャーとした専門職を養成するためには、上記のような提案に至ったが、そのためには家政学や生活科学のカリキュラム改革だけでなく、他方でそうして養成された学生を受け入れてくれる機関等の仕組みを作らなければならない。韓国の場合は、家族福祉を推進していくために「健康家庭基本法」が作られ、それを具体的に進めていく「健康家庭支援センター」が創設されたこととつながっている。日本でも、養成した学生の出口をどのように確保していくのかの課題が大きい。ただ、日本は韓国同様に、家族の機能が脆弱化しており、家族を支援していくセンターが必要な時期にきている。こうしたことへのアクションを進めていくことも重要である。

## 5. 主な発表論文等

[雑誌論文] (計2件)

- ① 白澤政和: 「近未来の社会福祉の枠組みと仕組み: 環境・医療・福祉政策とソーシャルワークの好循環を求めて」『社会福祉学』Vol. 52、No. 2、査読無し、pp. 142~149 (2011)
- ② 白澤政和: 「韓国の高齢者長期療養保険制度の現状—日本との比較をもとに—」『ケアマネジメント学』2011. 3、日本ケアマネジメント学会、査読無し、pp. 57~63 (2011)

[学会発表] (計2件)

- ① Sachiko Kasahara & Masakazu Shirasawa: "A study on the job satisfaction among chief homemakers" 9<sup>th</sup> Asia/Oceania Regional Congress of Gerontology and Geriatrics, Melbourne, Australia, 2011. 10. 23~27, pp. 143~144 (2011)
- ② Hyoseung Bae, Shinichi Okada, Masakazu Shirasawa: "The Current Difficulties in Care Management Practice for the Elderly in Japan" 21<sup>st</sup> Asia-Pacific Social Work Conference, Tokyo, Japan, 2011. 7. 15~18, pp. 272 (2011)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

白澤 政和 (SHIRASAWA MASAKAZU)  
 桜美林大学・自然科学系・教授  
 研究者番号: 20094477

(2) 研究分担者

春木 敏 (HARUKI TOSHI)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：80208694

(H22→H23：連携研究者)

宮野 道雄 (MIYANO MICHIO)

大阪市立大学・大学院生活科学研究科・教授

研究者番号：00183640

(H21のみ)

(3) 研究協力者

裊 孝承 (研究者番号なし)

金 銀静 ( " )

林 暁淵 ( " )

李 SARA ( " )